

第6回 日本 TRIZ シンポジウム 2010 発表者の皆さま (4)

2010年9月1日

日本 TRIZ 協会

シンポジウムプログラム委員会

中川 徹・小西慶久

記録的な猛暑が続いておりますが、皆さまお元気にご活躍のことと存じます。シンポジウムまであと1週間に迫りました。最新の状況を整理して、発表者の皆さまにご連絡いたします。神奈川工科大学の会場でお会いし、皆さまとともに充実したシンポジウムにしたいと願っております。

(1) **最終原稿と論文集：** 皆さまから最終原稿を提出いただき、整理いたしました。多くの国内発表者の皆さまから英訳スライドを提出いただきましたとともに、一部の方のものを英訳支援または英訳推敲支援いたしました（この際、シンポジウム事務局だけでなく、何人ものボランティアの方のご協力を得ました。お礼申しあげます）。すでに一昨日に印刷版の論文集を印刷所に回し、現在、デジタル版の作成作業をしております。

(2) **プログラムの変更：** 8月下旬に、Richard Platt 氏(米国) からオーラル発表の取下げ、また、Hyo June Kim 氏(韓国) からポスター発表の取下げの申請がありました。TRIZ 協会運営会議(8/27)でこれらに伴うプログラムの修正をし、さらに第3日のポスター発表の時間短縮と30分の繰り上げ終了を決めました。これらの変更を反映したプログラムを、第四次プログラム計画として公表いたします。ご注意ください。

(3) **参加登録状況：** 現在の参加登録は、169名（うち、国内から117名、海外から52名）です。厳しい経済状況の中ですが、国内参加者が昨年と同等で100名を越えたのは嬉しいことです。海外からの参加者が多いのは、韓国の企業の人たちです。今回、韓国からの発表が8件あります。また、韓国能率協会コンサルティング(KMAC) が積極的に企業に働きかけて、サムソン電子15人、POSCO 12人、合計約30人のグループで参加します(8/25参加申込み)。びっくりするばかりの人数ですが、きっと熱心に質問してくると思われます。予めお知らせしておきます。

(4) **当日の発表スライド、ポスター発表について：** 発表スライドは、USB メモリなどでお持ちください。すでに提出されているスライドは、発表会場内の事務局のPCにセットしておきます。

なお、ポスター発表のかたには8/26にお送りしました注意事項を再度参照下さい。掲示用にスライドをA4用紙（またはB4用紙）に印刷して持参し、初日に指定の模造紙に貼り付けて、指定場所に掲示ください。ポスター紹介セッションでは各人3分で紹介してください。その後3階のポスター会場（＝廊下）で説明をします。第2日は6件並行で合計100分、第3日は5件並行で合計70分としています。

(5) **グループ討論：** 非公式でフランクな議論の場として、第2日の夕食後に「グループ討論」の時間を設けております。現在、6テーマを準備しており、別紙の表のようです。皆さまも積極的に参加いただけますよう、お願いいたします。

なお、ここで一件補足があります。全員に配付する「概要集」には、グループ(G)「TRIZ: 日本の状況と韓国の状況」を掲げ、日本語と韓国語を使う(通訳を介する)案を示していますが、これは中止しました。中止の理由は、韓国語が本シンポジウムの公用語ではありませんから、やはり、日本語と韓国語の通訳を介することは不適切と判断しました。また、このテーマは関心が「高過

ざる」ために、(A)～(E)のグループに人が集まらなくなると想定されました。最終的に選択したのは、(A)～(E)の「分野ごと」の討論で、韓国の参加者をも交えて、できるだけ英語を使って討論する。その中で「日本と韓国との比較」というテーマは自然に底流にあるだろう。各分野ごとに考えることによって、後で総合するとより深くなるだろう、と考えた次第です。

(6) **神奈川工科大学後援**：本シンポジウムの開催にあたり、神奈川工科大学殿が会場を無償で提供下さり、いろいろのお世話を下さってきました。日本 **TRIZ** 協会はもとよりこのことに厚く感謝しておりますが、パンフレットやホームページで適切な表現ができておりませんでした。遅ればせですが、本シンポジウムに、「後援：神奈川工科大学」と表記させていただきます。

それでは、会場でお会いしましょう。きっと充実した3日間となることでしょう。

敬具